生き地獄❶

焼けただれた皮膚をぶら下げ、全裸に近い格好で避難する人々。重傷を負い痛ましい姿で歩く人々。横たわり死を待つばかりの人々。この世のものとは思えないほど悲惨な光景は、しばしば「地獄」という言葉で表現されました。

想像を絶する地獄を目のあたりにした。

❶田中陽造　❷18→75　❸8/6　❹船越

着衣は無く焼けた皮膚をぶら下げた老若男女の「アツイ!」「助ケテ!」の悲鳴がウォーという大きなうなりになって押し寄せて来る。

やっとの思いで川原まで逃げ、力尽きる

❶原田知恵　❷18→47　❸8/6　❹常盤橋付近

時間がたつにつれて死に近づく人たちが水を求めて虫の声をふりしぼる。水をあげるとむさぼるように飲み、安心して息を引き取った。

腸がぶら下がったまま歩いていた

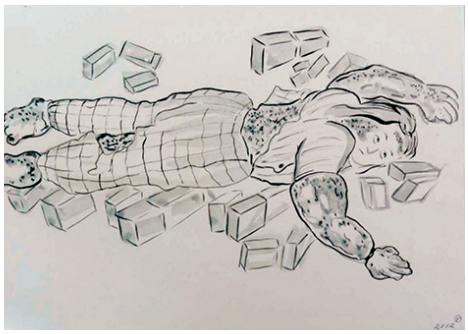
❶初谷忠曷　❷34→64　❸8/6　❹宇品神田

40歳ぐらいの男の人。全身火傷で、皮膚が桃の皮のようにむけ、ぶら下がっている。真っ青な顔で、一点をジッと見つめる目ばかり血走っていた。

棒が突き立ったまま

❶林隆　❷15→72　❸8/6　❹廿日市市住吉

まっ黒になった女の人が、太さ3センチ位の杭のような棒が顔のまん中に突き立ったまま、トラックからおりてよろよろと、負傷者を収容する学校に入って行った。



カンカン照りの中動けないのである

❶原田義諦　❷16→46　❸8/7　❹相生橋付近

腕時計が食い込んでいるのでゆるめてやりたかったが、さわると手の皮がズルズルむけるので、どうしようもなかった。日差しを避けようにも、草も木も無く、壊れたレンガばかりだった。